

# 和泉観ボラだより 第13号

2016.2 発行

〒594-0071 和泉市府中町 1-19-9 (和泉府中駅前) 和泉市いずみの国観光おもてなし処気付「和泉観光ボランティアクラブ」

TEL: 0725-40-5552

FAX: 0725-40-5553

## ☆観光ボランティア養成講座が修了しました☆

2015年秋にスタートした第5期和泉観光ボランティアガイド養成講座(全9回)が終わりました。和泉市役所いずみアピール課と文化財振興課のご協力により無事に終えることができました。22名の受講者とともに、和泉観光ボランティアクラブ会員も講座に参加しました。全9回の連続講座7回以上出席者には修了証が和泉市より授与されました。講座終了後に和泉観光ボランティアクラブに入会された受講者13名が加わりました。

和泉の観光から始まり、和泉市の地形・地質・歴史・現在へと続き、最後は話し方教室まで幅広く有意義な講座になりました。来年度も講座があるのかという問い合わせも多くあり、これからも養成講座が企画・運営できたらと思います。

新会員を迎え、これからも和泉市の観光に関わり、和泉観光ボランティアクラブは成長していきたいです。



和泉市を知りたい、もっと和泉市を知りたい、和泉市の歴史に興味がある、もう少し深く和泉市について勉強したい、生まれも育ちも和泉市だが和泉市のことは全く知らなかった、ハードルが高い印象を持った、講座の内容も工夫されていて良かった、桑原のことにびっくりしたがもっともっと知りたい、10月の歴史ウォークの時に伯太藩があったことを知り良い意味でショックを受けた、中塚先生の信太と伯太藩の話で信太が和泉市について良かったことが良くわかった、よくできた講座でますます和泉が好きになった…等、たくさんの感想を受講者から戴きました。

仕事をしているのでフルに出席できない、来年も講座があるのか、あれば出席回数を免除してもらえるのか、だれが受講生なのかわからなかったので受講者と和泉観光ボランティアクラブ員とわかるようにして欲しかった…等、次につながるご意見も戴き、今回の講座をみんなで顧みる機会を持つと思っています。

(写真・左上 2枚熊野街道 左中大野町の阿弥陀寺  
左下 槇尾山満願の滝)

# わたしの好きな和泉市のスポットは…

## 松尾寺の松尾明神供

旧暦 10 月 15 日 (新暦 11 月 14 日)、まだ夜が明けぬ 5 時から行われる松尾寺の三天堂での松尾明神供 (秋の収穫祭) に参加させていただきました。穀聚三天尊には、へぎ盆に乗った会席料理がお供えされていました。

ご住職と二人の僧侶の方々3名による読経が始まりました。時代を感じる秘仏を前にして聴く読経に、厳粛な気持ちが湧いてきました。そんな厳かな中で、ご住職の小学生のお孫さんが小さな声でお経を口ずさみながらリズムカルに木魚をたたく姿に、寺院を引き継いでいく一コマを垣間見ました。



「村の人々、信者の皆さま、造り酒屋さん等、多くの方々が集いながら続けて参りましたが、今年からは僧侶三人でやることにしました。」と話したご住職の傍らで、「夜中の 2 時頃からお供えの会席料理を作りましたねえ。」と、奥さまがおっしゃっておられました。たくさんの方々が集まって盛大な秋の収穫祭が感謝祭として行われていた様子が目に浮かんできました。「<sup>こんにち</sup>今日まで続いてきた松尾明神供の法要を絶やさないように、これからもずっと続けていきます。」とおっしゃっておられました。



800 年前から作り続けてきた海のもの 7 品と山のもの 7 品を 1cm 角のさいの目に切って、塩のみで味付した会席料理をご馳走になり、お供えしていた会席料理をお土産に頂いておいとましました。いつしか辺りはすっかり夜が明けていました。前々から参加させていただきたいと思っていた松尾明神供にやっと参加することができ、清々しい朝を迎え家路につきました。



## 和泉府中の駅からの風景

JR 和泉府中駅が新しくなってから 2 年が過ぎました。2016 年 5 月には 3 周年になります。和泉府中駅改札口を出てバスロータリーのある歩道橋側に出ると、商店街が見えます。また和泉市立図書館の入る「フューチャー和泉」へ向かって歩道橋を歩くと和泉市の山々も望めます。虹が綺麗に見えた日もありました。



2015 年 12 月和泉府中駅前クリスマスイルミネーションが点灯されました。和泉中央駅周辺では以前よりイルミネーションが点灯されていて夜遅くまで明るかったですが、和泉府中駅も冬の日が短い時期にクリスマスイルミネーションが灯されて、とても明るい師走の風景となりました。毎年の和泉市の風物詩になってほしいです。

# 2016 年初詣に行ってきました♪



初詣と言えば、日本一は東京の明治神宮だと言われていますが、関西では伏見稲荷、住吉大社、大阪天満宮など多くの参拝者が訪れます。和泉市でも地元で愛されて親しまれている神社仏閣が多々あります。今年は西国三十三所第四番札所として有名な和泉の観光名所のひとつでもある槇尾山施福寺へ初詣に行きました。西国三十三所のなかで一番の難所と言われているように山道を登ること40分、たくさんの参拝の方々とすれ違いました。すれ違うたびに山と同様に「こんにちは」「おはようございます」「おめでとうございます」というように挨拶が交わされます。下山すると満願滝弁財天でぜんざいがふるまわれていて身も心も温まります。今年は暖かい新年三が日だったので絶好の初詣となりました。(写真・施福寺、満願滝弁財天)

JR 阪和線北信太駅から徒歩圏内にある聖神社、葛の葉稲荷神社では御神酒を戴くことができます。みなさんはどこへ初詣をされたでしょうか？和泉にも金毘羅神社や春日神社があります。(写真・聖神社、葛の葉神社の御神酒、聖神社の御神酒)



お正月、槇尾山バス停近くのお店に「槇尾山名物」がたくさん並んでいました。みなさん名物ご存じでしたか？

## 和泉観光ボランティアクラブ出前講座報告



和泉観光ボランティアクラブメンバー、ダブルキャスト、トリプルキャストで熱演中♪



2015年11月12日光明台北校区いきいきサロンふれあい会で出前講座をしました。ガイドの依頼が多い時期なので、配役6人の寸劇に集まったメンバーは4人。1人2役で演じることにして会場へ向かいました。いろいろな場面で、プロではやらない素人芸が飛び出しましたが、会場からは笑い声と拍手を戴きました。

パワーポイントを使った観光ポイント紹介では、成り行きに応じて分担していく方式でやることにしました。1人が観光ポイントを説明、スクリーンの画面が次の観光ポイントに移ると、手を挙げたクラブ員が入れ替わって講師になり、そこへ他のクラブ員の突っ込みが入ったり、会場の来られたみなさんの回想話も盛り込まれ、わが町の談義になるとこのような展開もあるんだなあと思いがけない新鮮な体験をしました。少ないメンバーでの出前講座でしたが、お引き受けしてよかったと実感しました。

寸劇「貧女の一灯」では亡き妻を追ってあの世へ旅立つ源左衛門。その去りゆく後ろ姿に客席から拍手、その拍手に感動した源左衛門が思わず振り返ってお礼、再び源左衛門が冥途にむかう後ろ姿に声が掛かる…という出演者と客席とのコラボレーションになった出前講座でした。

観光ガイドへのお問い合わせ先「和泉市いずみの国観光おもてなし処」

開所時間・10:00～18:00 定休日・月曜日（祝日の場合は翌日）年末年始

TEL：0725-40-5552

FAX：0725-40-5553

# 和泉観光ボランティアガイド活動日誌

## 阪和線北信太界限、歴史と伝説と文化と技術を訪ねて…



2015年9月15日、連合大阪南の皆さんと葛葉稲荷神社に参拝したのち、和泉市の2大特産品を創り出す現場に立ち寄りつつ、熊野古道を歩いてきました。

安倍晴明ゆかりの葛葉稲荷神社では、葛葉伝説の白狐が化けた時に姿を映したという姿見の井戸、葛葉が信太の森に逃げ帰ったときに悲しみに暮れて化けた御霊石など説明をうけ、以前は境内に繁茂していたであろう葛の葉の鉢植えを見学しました。ウォーク後、無事家に帰れますように…と、各々姿見の井戸に姿を映していただきました。(写真・左上)



熊野街道での小栗判官伝説では、千年前の上皇が熊野詣をしたと言われていています。同じ街道を餓鬼と化した小栗判官が土車に乗せられて熊野本宮を目指して通り過ぎていきます。時が流れ、辺りの風景は変わりましたが、同じ熊野街道をこうして歩くということにロマンを感じたひとときでした。



その後、施設見学では和泉市特産の人造真珠の製造過程を見学しました。品質管理が厳しくパールちょっとしたキズでも出荷できないという説明に、職人魂というか和泉市特産品の品質を守る心意気を感じられました。続いて佐竹ガラスさんの工場を見学しました。「あの建物、テレビで見たわ。」という声が聞こえました。ガラス棒製造過程を見学し、職人さんたちの卓越した技術に皆さん圧倒されたようです。工芸ガラス棒は全国シェア80%以上を誇るそうです。和泉の歴史と伝統工芸に浸った一日でした。

## 海外からの留学生の皆さんと和泉を巡るモニターツアー

11月28日に和泉市文化財振興課主催の「桃山学院大学留学生のモニターツアー」に、インド、韓国、台湾、中国からの留学生の皆さんとご一緒させていただきました。自己紹介や抱負などを流暢な日本語で話す留学生もいれば、来日してまだ数か月なので一つ一つ言葉を探しながら片言の日本語で話す留学生もいましたが、言葉の端々に日本が大好き、日本の文化や歴史に興味をもっている、帰国してもまた来日したいなど、嬉しい言葉をわたしたちに伝えてくれました。

和泉市の歴史と文化を体感するツアーで、いずみの国の歴史館、弥生文化博物館、池上曾根史跡公園、松尾寺、久保惣記念美術館を巡りました。どこへ行っても、留学生たちは漫然と過ごすことなく、積極的に質問し、観る・聴く・触れる・作るという積極的な姿勢に感心しました。

松尾寺を訪れたとき、ご住職の山伏姿の出迎えにびっくりしながらも、早速質問が飛び交いました。頭の兜巾(ときん)を指して「それは何ですか?」「ヘルメット」と軽やかなやりとりや、住職を真似て法螺貝を吹いてみると“ブスッ”という空音に“クスッ”と笑い声がこぼれたり、微笑ましいひとときでした。毎月28日に行われる不動堂での護摩供を特別にツアーの時間の中で見せて下さいました。不動堂へ入ると不動明王厨子が安置されていて、その前には護摩壇があり、中に火が点けられ、木の護摩札を一枚ずつ読み上げて、その中に投げ入れます。その度に炎が立ち上り、シャッター音が堂内に鳴り続けました。留学生の皆さんには日本の古来から続いている厳粛な儀式に感動があったのでしょうか。

初めての貴重な体験ができ、記念になるツアー参加となりました。

